

第 10 回 JDA 春期ディベート大会準決勝

論題：日本・中国・韓国および全 ASEAN 加盟国は、自国通貨を廃止し、共通通貨を採用すべきである。

即席とんこつ vs. ak2brains

編集：安藤温敏

はじめに

本トランスクリプトは、2004年3月13日、東京農業大学（東京都世田谷区）において開催された、第10回JDA春期ディベート大会準決勝二試合のうちの一試合、即席とんこつチーム対ak2brainsチームの対戦の様子を記録したものである。

本大会の論題は、「日本・中国・韓国および全ASEAN加盟国は、自国通貨を廃止し、共通通貨を採用すべきである。」であるこの試合の審査員は、佐藤義典氏（ラップコリンズ）、常富勇人氏（上智大学OB）、友末優子氏（ロシュ・ダイアグノスティックス）の三名であった。このうち佐藤氏、常富氏の二名が否定側に投票し、ak2brainsが勝利した。

本トランスクリプトは、ディベーターの協力の下、当日録画されたビデオテープを基に作成された。明らかな言い間違い、不適切な表現を除き、極力ディベーターが喋った内容をそのまま記録している。

このディベートにおいて使用された証拠資料は、あくまでディベーターの引用通りに掲載しており、著者の実際の意図と異なる引用である可能性や、出典等が誤っている可能性がある。本トランスクリプト中で引用された資料を他で再度引用する場合は、原典を調査・確認した上で使用していただきたい。

肯定側第一立論：稲田誠 即席とんこつ

肯定側立論を始めます。

我々肯定側は論題を支持し、以下のプランの採択を求めます。プラン。

1) 2010年にアジア単一通貨を導入し、呼称単位を「とんこ

つ」とします。

- 2) 13カ国の中央銀行を一元化します。
- 3) ユーロ同様、各国の財政赤字幅の制限を設け、その幅をGDP比5%以内とします。
- 4) その他必要な措置を講じます。

メリット1：東アジアの軍事的脅威の解消

論点1：アジア各国の緊張や軍事的脅威があります。その動きは南沙諸島周辺国同志や台湾を巡る対立などにおよんでいます。

A) その一つが中国の軍事的脅威です。

米陸軍大学戦略研究所編「中国が戦争を始める」2002年5月より、引用開始。

「建国以来の四十数年の間に、ざっと数えただけでも11回の対外軍事力行使の実例があげられるのである。この経緯を見ると、中国は周辺のほぼすべての諸国に対し軍事力を行って来たことがわかる。（中略）しかもさらに重要な史実は、これらの軍事衝突の歴史では、中国側が先に軍事攻撃を受けたというケースがほとんどない、という点である。中国が自国領に攻撃をうけたわけでもないのに、先制の形で相手に軍事攻撃をかけるという実例ばかりなのだ。」引用終了。

B) 一国の暴走は世界規模の戦争につながります。

浜田和幸「通貨バトルロワイアル」2003年、引用開始。

「中国の内部資料600件を精密に分析したアメリカ国防総省は2000年1月に『中国の未来戦争』と題する報告書をまとめた。その結論は『中国はアメリカが2030年には国力のピークに達し、その直後からアメリカの影響力は急速に低下すると予測している。その時こそ、アメリカと事を構えるチャンスであると、中期的な対米戦シナリオを準備している模様。最初の衝突は台湾海峡を巡って起こるだろうが、その後、戦線はグローバルに拡大する可能性が高い。この対米最終戦争に勝利するた

めに、中国はわれわれのコンピュータ・ネットワークを破壊する電磁波攻撃を必ず行うだろう』というもの。」引用終了。この中国の例からも分かるように、各国の軍事的野心を押さえることは東アジアの共通利益に繋がります。

論点2：内因性。現状は各国が自由に通貨発行や国債発行ができます。よって各国の戦費調達に歯止めがありません。

近藤健彦、2003年、引用開始。

「論理的にはアジア共通通貨はアジア太平洋地域の安全保障に貢献する。アイケングリーンによれば、『通貨同盟に参加することによって、一国の通貨発行権を放棄することは、戦費調達のための通貨発行ができなくなるので、領土拡大の野心を捨てさせる』ことに通じる。これはしかし、上述したところの『単一通貨』の段階になってはじめていえることで『共通通貨』の段階ではそこまではいえない。」引用終了。

論点3：解決性。単一通貨のみが軍事的脅威を無力化させます

- A) 通貨発行権は新設の中央銀行に移り、各国は通貨発行ができなくなります。
- B) また財政赤字幅の制限によって各国の軍事費も削減されます。

小坂橋昇、1999年、引用開始。

「通貨統合参加国、すなわちユーロ導入国には、財政赤字をGDPの3%に抑させるという条件が定められている。(中略)その効果とは、巨額の財政赤字を招く軍備の大幅な拡張を抑止することだ。もちろん、共通の通貨を持つことは共通のアイデンティティを深めることにもなる。」引用終了。

C) 単一通貨なら軍事的脅威はなくなります。

近藤健彦、2003年、引用開始。

「アジア太平洋地域が単一通貨になれば、独仏間でもう二度と戦争をしないようにという決意でユーロを作った欧州のように、アジア太平洋でも単一通貨ができれば戦争をなくすことに通じる。」引用終了。

メリット2：世界大恐慌の回避

論点1：重要性。為替の乱高下は世界大恐慌を呼びます。90年代後半のアジア通貨危機はエリア経済に大打撃を与えました。立命館大学教授、唐沢敬、1999年、引用開始。

「通貨危機はタイを皮切りにインドネシア、マレーシアから香港、韓国を経て瞬間にアジア全域に広がったが、これほど大規模な通貨危機がアジアを襲ったのは始めてであり、世界経済に与えた衝撃も甚大であった。通貨安が株安を呼び、さらに新たな通貨安を引き起こす『下落の連鎖』を発生させたばかり

か、大規模な金融不安と石油価格の下落を通してロシアから中南米に危機を伝播し、世界金融危機を彷彿させる状況を作り出したからである。」引用終了。

よって世界大恐慌を防ぐ意味で東アジア域内経済の為替の安定化が不可欠です。

論点2：内因性。アジア各国では弱小通貨が使用されており、個別通貨ではヘッジファンドに対抗できません。

西野武彦、1999年、引用開始。

「ヘッジファンドは、デリバティブという金融の最先端技術を駆使しながら、欧米の資産家や金融機関の資金を世界中の為替や株式、債券、商品取引などの市場で運用している、極めて投機色の強い投資集団です。これらの国際的な投機資金は、少しでもチャンスがあれば、大量の資金を集中的に投資し、相場を急騰、急落させて大きな利益を手に入れようとしているのです。(中略) こういう投機資金に狙われると、一国で対抗するのは困難です。」引用終了。

論点3：解決性。単一通貨導入で世界大恐慌が回避できます。

- A) 域内の為替リスクはゼロになり、対外取引でもドル建てが減ります。

東洋経済、2004年3月13日、引用開始。

「もちろん為替を安定させる究極の方策は通貨統合だ。もし、アジアで通貨統合が実現すれば、アジア諸国間の為替問題は存在しなくなる。ドルの使用も減るから、ドル価値変動の影響を受ける度合いも小さくなる。」引用終了。

- B) ヘッジファンドにも対抗しうる安定した通貨となります。立命館大学アジア太平洋大学教授、近藤健彦、2003年、引用開始。

「投機する側からいうと、アジア各国の国内通貨に対するようには、アジア単一通貨に対しては気安く通貨投機を仕掛けることはできなくなる。何倍もの投機資金が必要となるだけだろうし、もし負ければ損害も回復でいなくらい大きな額になる可能性があるからだ。したがって、単一通貨のほうが、通貨投機抑制力が大きくなる。」引用終了。

このように単一通貨は通貨投機に対しても対抗できるものであり、さらに域外主要通貨に対しても乱高下せず、世界大恐慌が防げます。

メリット3：為替コストの削減。

論点1：為替手数料の分だけ国際競争力が落ちます。

近藤健彦、2003年、引用開始。

「アジアは、自国通貨をドルなどの国際通貨に交換して対外取

引をせざるを得ないので、為替交換手数料、さらにもっと重要なのは為替リスクが伴う。結果アジアは、他の条件が同じならその分だけ確実に欧米に対して高コストとなる。大競争時代において、アジア各国は欧米と競争条件が同じにならず不利になる。」引用終了。

論点2：現状では域内取引にも為替コストが発生します。

論点3：単一通貨になれば域内ではコストが消え、域外取引でも為替コストが激減します。

河野健一、[時間切れ] 99年...

否定側質疑：赤津→稲田

赤津：質疑を始めます。まず確認したいんですが、メリット二点目で、一点目の証拠資料では、為替が不安定だというお話をされていて、二つ目はヘッジファンドのお話をしている、ということなんで...確認なんですけど、一つ目は、恒常的に為替が不安定に、ま、なりやすい、というお話で、二つ目は、ヘッジファンドのようところが攻撃を仕掛けやすい、という、緊急の危機と考えてよろしいんですか。

稲田：そうですね、為替が...為替が不安定であることによって、ヘッジファンドが...

赤津：攻撃を食らうということですね。

稲田：はい、ヘッジファンドがつけ入る隙がある、ということです。

赤津：えっと、だから、まず、域内が...に、為替リスクがなくなるということで、安定化するという点と、もう一つは、大きなお金を持つために、域内...国が大きくなって、大きなお金を持つために、ヘッジファンドから攻撃を食らいにくくなる、ということですね。

稲田：そうです。

赤津：はい。で、ヘッジファンドの方に...まず聞きたいんですけど、ヘッジファンドの攻撃を防ぐには、大量の、要は、資金を持つのが大事、ということですね。

稲田：え〜...

赤津：資金を持って、その攻撃に耐えられる。通貨 [不明] をま、売ってくると思うんですよ、大量に。それを買い戻す程の、通貨が大量にあればいい...でも、今のアジアの小国ではできない、ということですね。

稲田：一つは、まず、あの、為替がある...為替の存在自体が、ヘ

ッジファンドのつけ入る隙を与える、ということ、これをプランによって...

赤津：すいません、為替の存在で...

稲田：為替の存在で...為替規模の...

赤津：為替の存在っていうのは、プランをとっても、この...「とんこつ」とユーロとか、「とんこつ」とドルとの間の為替は...

稲田：それはあります。

赤津：存在しますよね。

稲田：ありますが...

赤津：ですから、結局ヘッジファンドからの攻撃、というのは売り、とかに対して強くなる、ということだけだと思うんですけど...

稲田：その...相場の乱高下させるということに対しては、デイトレポケット理論といいまして、大きな資金、大きな通貨であればあるほど...

赤津：大きな資金を持っている、ということですね。

稲田：大きな通貨であればあるほど...

赤津：通貨というより、資金ですね。資金で買い戻すわけですから...

稲田：それを...

赤津：資金があればいい...

稲田：それを防止するためには、資金があればいいことになりすけれども、その前段階において、通貨が大きければ大きいほど、仕掛けにくい、と...

赤津：ん？ちょっとよく分からないんですけど、ちょっと待っていただけますか。

稲田：はい、前段階というのは、その...

赤津：普通は...通貨が大きくなるから、単一通貨にすると、攻撃が防げる、ということだと...

稲田：ごめんなさい、え〜と、整理させてください。まず、通貨が...為替...通貨為替が乱高下するというのが、問題点で、一つあります。この点に...乱高下ですね...

赤津：例えば、単一通貨でも、単一通貨が...

稲田：例えば、パーツとかリングットというのが、乱高下...

赤津：よろしいですか。単一通貨の「とんこつ」が乱高下しても問題になりますよね。

稲田：それは...「とんこつ」は、乱高下しません。

赤津：というのは、要は、結局、域内では乱高下しないだけで、ドルとかユーロに対して乱高下するかも知れないですよ。

稲田：乱高下はしません。大きいから、安定します。

赤津：大きいから、ですね。資金がでかいかどうかが重要だということですね。

稲田：はい。

赤津：はい。で、もう一つのメリット3の、為替コストなんですけど、この、為替コストというのは、ちなみに、誰が誰に払っているか、というと、会社が銀行に払っているんですよね。

稲田：そうですね。

赤津：交換手数料を...そのはずですよね。そうすると、この為替コストがなくなる、ということは、銀行にとってはデメリットが発生すると考えてよろしいですよね。

稲田：デメリットが発生するかどうかは分かりません。

赤津：え、少なくとも、儲けは少なくなりますよね、その...為替手数料の分...

稲田：為替手数料の分少なくなる？...

赤津：なる...為替手数料は、銀行に払ってるんですよね。そして、[時間切れ] 銀行の為替手数料...はい、ありがとうございます。

否定側第一立論：加悦裕幸 ak2brains

デメリット、メリット1...すいません、プレパタイム中に、いいですか...デメリット、メリット1、2、3の後に、カウンタープラン、この順でさせていただきます。

では始めさせていただきます。

デメリット：為替調整の喪失。

A) 現在、東アジア諸国では為替レートの調整により国際競争力を保っています。

週刊東洋経済、95年の記事より引用します。

「ただ、東アジアで対ドル本国通貨の切り上げが相次ぐ中、ASEANのフィリピン、インドネシアは、逆にドルに対する価値を切り下げている。これは両国が東アジアの中では経済水準が相対的に低く、インフレの危険を冒しても輸出に有利な状況を確認したいからだ。両国とも高債務国であり、輸出で外貨を稼ぐことの優先順位が高い。国際競争力向上のため本国通貨を切り下げている。」引用おわり。

B) しかし、プラン後、通貨が単一になるので為替レートを調整できなくなります。特にインフレで苦しんでいるような国々は国際競争力を失い、経済に致命的なダメージを

与えます。

ジャーナリスト、ミュラー氏の97年の著書より引用します。

「物価上昇率がバラバラの国々が参加すれば、EMUには致命的となる。ギリシャのように物価上昇率の高い国の経済は、あつというまに国外からの競争圧力にさらされ、つぶされてしまう。そういう国の製品は他の製品に比べて高くなり、売れなくなるからだ。今はまだ、為替相場が調整役を果たしている。ある国の物価が上昇すれば、その国の通貨は下落する。為替相場にはこのようにして物価上昇率の差を緩和し、経済競争力を維持する作用がある。しかし、為替相場は通貨統合で消滅する。例えば、96年の物価上昇率が8.4%だったギリシャが参加すれば、ギリシャ経済は深刻な打撃を受けるだろう。」引用おわり。

C) 重要性は、肯定側と同じです。

続きまして、メリット1に移ります。まず、メリット1につきましてなんですが、まず彼らは...まず、論点1についてなんですが、中国が、台湾や南沙諸島に進出したい、と言っているだけで、決して軍事を使うとは言っておりません。よって...さらにメリット3につきましてなんですが、これにつきまして、通貨発行ができない、と言っておりますが、もし、中国が、経済等が上昇すれば、その分によって軍事費が上昇することによって、これらのメリットは防げないと考えられます。

続きまして、メリット2に移ります。

まず、メリット2につきまして、論点1につきまして、通貨危機が起こると言っています。それで、彼らは現在...現在市場が狭く、流通する通貨が少ないから、こういったことが起こると言っておるんですが、すでにこういった事は解決されております。なぜなら、通貨スワップにより、通貨危機は防げるからです。

毎日新聞、2000年の記事より、引用します。

「東南アジア諸国連合(ASEAN)と日本、韓国、中国が本国通貨が為替投機にさらされた時、介入用の外貨を融通しあう『通貨スワップ協定』の締結で合意した。1997年夏のタイ・バーツの売り投機に始まったアジア通貨・金融危機の二の舞を予防することが狙いだ。[中略] そのことを勘案すれば、アジア地域の通貨安定のために、各国が資金を出し合うAMFは有益であり、できる限り早く設立されるべきである。スワップ協定合意は、AMF設立の推進力にもなるだろう。」引用おわり。

続きまして、論点3に移ります。まず、論点3につきまして、彼らは、安定した通貨に...通貨が安定する、と言っておりますが

これらについては、ユーロで否定されています。ユーロは、ユーロを導入した後に、ユーロ安等で変動しております。

Newsweek の 2000 年の記事より引用します。

「1999 年 1 月のデビュー以降、ユーロの対ドル・レートはじりじりと 28% も下落し、楽観的な投資家を何度も落胆させてきた。だがユーロ危機が現実味を帯びてきたのは、つい最近のことだ。その契機になったのが、ガソリン価格の高騰だ。ドル建てで原油を買う産業界は悲鳴を上げ、一般消費者も弱い通貨をもつことの悲哀を初めて痛感させられた。」引用おわり。
続きまして、これらの...もし変動すれば、アジアは耐え切れません。なぜなら、アジアでは不良債権やその他、経済状...経済構造が凄く悪いからです。

北東アジア研究、2001 年の記事より引用します。

「Corsetti 氏が 98 年が言うには、経済・金融に関する多くの統計指標を検証、過剰融資や多額の不動産資産、膨大な不良債権対外支払能力の低下などをもたらした、こうした構造的脆弱性が、通貨・金融危機発生の最大の原因であったと強調する。」

つまり、これによって、アジアでは、ユーロの導入のような変動でも耐えられない、ということが...耐えられないので、こういった通貨危機が再発する可能性があると言えます。

続きまして、メリット 3 に移ります。

まず、メリット 3 につきましてなんですが、論点 1 について、すでにアジアの経済等は上昇しており、これらの...これらの問題は少ないと言えます。

黒田教授の 2004 年の著書より引用します。

「その後、東アジア経済は危機を克服し、順調な回復を遂げてきている。東アジア地域全体の成長率は、危機直後の九八年には大幅なマイナスとなったものの、九九年から二〇〇〇年にかけて年率七%もの急速な回復を遂げ、〇一年以降もその力強さは基本的に失われていないと思われる。」引用おわり。

これ...また、続きまして、彼らの雇用についてなんですが、為替コストがなくなる、と言っておるんですが、これ、企業にとってなくなるわけで、その分銀行等が、当然、コストが...コストの分、ダメージを受ける、ということが言えます。

この点につきまして、星野教授の 98 年の資料より引用します。

「BIS の統計によれば、ユーロの誕生に伴って、外国為替取引高の少なくとも 10% が消滅すると予想されている。また、ボストン・コンサルティング・グループも、グローバルなクロス・ボーダー決済収入の約半分を占める EU では、ユーロの導入に

よって 2004 年までに約 50 億ドルの収入の減少が見込まれ、グローバルなレベルで競争することが可能な数行を残して、既存の国際的なホールセール振替決済機関は壊滅的な打撃をうけるだろうと予想している。」引用おわり。

また、さらにこういったことについて、特に中国において、こういったことは危険だ、ということが指摘されています。

中国情勢研究会、97 年の著書より引用します。

「甘・副委員長の分析によれば、4 大銀行と交通銀行および中信実業銀行の貸出残高に締める不良債権は約 20% に達し、500 億元（邦銀換算 7 兆円）以上に膨らんでいる。中国の年間国家財政は 7000 億元（同 9 兆 8000 億円）であるからその規模の大きさがわかる。」

つまり、銀行とか、この...不良債権を抱えている状態で、そのようなことが起これば、当然、中国の銀行等が破産し、それらからのダメージは大きいと考えられます。

よって...続きまして...そこで私たちは...続きまして、カウンタープランを提示させていただきたいと思います。

日本は、日本以外で共通通貨を導入すべきだ、というカウンタープランを提示します。

プラン 1：日本以外の国々で、共通通貨を導入します。

- A) 日本が共通通貨を導入しないので、論点を充たしません。
- B) 競合性については、日本が共通通貨を導入するということと、導入しないということは同時には成り立ちません。
- C) 日本は外した方が良い結果を得られます。

1...日本...失礼しました...日本が加わると、アメリカの反発を招きます。

近藤教授の 2003 年の資料より引用しますと、

「...キッシンジャーは『（もし通貨面で日本が米国でなく中国を選ぶのであれば）日米安保条約は徹底的に見直す。アメリカのアジアに対する安全保障政策も根本的に変えることになる』と言ったという。」引用おわり。

よって、日本は共通通貨導入から、外すべきだと考えます。

以上で終わらせていただきます。

肯定側質疑：稲田→加悦

稲田：それではまず、デメリットの方について聞きたいと思うんですが、これは、最初の...A)の所で言っているのは、二国が、対ドルレートを切り下げる、と言っている、と。で、これが、

具体的に...ここでB)の方でも言ってるんですけど、レート調整のレート、というのは、何のレートのことを言うんですか。

加悦：為替の、対ドルとのレート...

稲田：対ドルの、はい...

加悦：この場合には...

稲田：レート調整ができない、っていうのは、どういう根拠によりますか。我々の...

加悦：当然、各国毎にレートが違えば、それはもちろん、お金としての単位が変わってしまうので、そうなれば当然、統一通貨である、ということではない、と思うんですが...

稲田：一番目の証拠資料は、二国というのは、どの国とどの国ですか。

加悦：今回の例では、フィリピンとインドネシアです。

稲田：フィリピンとインドネシアが、対ドルに対して、為替レートを調整している、と...

加悦：はい。

稲田：それを、調整できなくなると、どうなると言ってるんですか。

加悦：調整できなくなると、当然、その...今回の状況では、輸出を有利にしたいから...輸出を増やしたいから、こう言った為替調整を行っている、つまり、こういった調整を行わなくなったら、その、輸出等が、当然落ち込んでくる、こういったことによって、当然、経済に深刻な影響を...国内経済に深刻な影響を与える、ということが...為替...

稲田：わかりました。それでは、輸入に対してはどうですか。

加悦：輸入に対して...

稲田：輸入に対してだと、高コストになりますよね。ということは、競争力が下がる、ということになりませんか。

加悦：え...と、それは、輸入する側ですか。輸出...

稲田：輸入する側です。

加悦：...は、...

稲田：輸入する側、というのは、その...さっき挙げられた二国が輸入する...彼らは自国のものをそのまま作って...内部で組み立てて出すわけではなくて、何らかの色んなものを輸入して、それをアSEMBルして、また出すんですよ。そういうことで言うと、その分高コストになるので、競争力が落ちる、という風に思われるんですけど、どうでしょう。

加悦：当然、そう言った企業もあるかと思うんですが、もちろん国内だけで作る産業もありますし、またさらに、当然...

稲田：その分は認めていただけるということですね。分かり

ました。B)のところ、物価上昇を招くと言っていますけれども、これは...実際ヨーロッパの例ですね。物価上昇を招いたと言ってるんですね。で、物価上昇を招くと、どうなるんですか。

加悦：当然物価上昇を招いて、さらにその、国外から、安い品物が入ってくるという状況が、来る以上、さっき言ったように輸入しやすくなる、といったことからして、それである以上、国内産業が...当然、国内で売れなくなる、といったことから...

稲田：わかりました。それでは、メリット3のところの攻撃について。経済は今上向いているから問題ない、とおっしゃってますけれども、これの、クレームというか...どういう意図なのか、教えて欲しいんですけども...

加悦：はい、私が提示したいのは、これによって、為替コストというのは、どれだけの...その...貿易等に影響を及ぼしているのか、ということ...と、あと...

稲田：結構です。次に行きますけれども、銀行にとっては不利だ、と言ってますけれども、これは、EUでは50億でどうのこうので、打撃...大打撃を受けるだろう、と言ってますけれども実際に導入して、打撃を...食らったんですか。そこまで証明していますか。

加悦：そこまでは証明...

稲田：してないですね。はい、わかりました。それでは... [時間切れ]

肯定側第二立論：櫻井功男 即席とんこつ

それでは始めます。

まず、メリットで、三つ目のメリットの...最後のグループから始めます。

論点3：単一通貨になれば、域内ではコストが消え、域外取引でも為替コストが激減します。

河野健一「ユーロ誕生」99年、引用開始。

「ユーロ導入によって [中略] 為替変動のリスクと両替のコスト [中略] がなくなった。欧州委員会の試算によると、その一年あたりの節約効果はEU全体のGDPの0.5%になるという (中略) また、あるドイツの金融機関の推計では、ユーロ圏全体では年間1000億マルク (約7兆円) の節約になる。いずれにせよ、莫大な節約効果になることは確かである。」引用終了。続いて、デメリットを返します。

デメリットとして出ましたのが、為替調整ができないから、現

在意的に自国通貨を切り下げて、輸出を有利にしている国が、不利になる、ということでしたけれども、これ、為替のマジックであります。輸出がしやすくなる、ということは、輸入品が高くなるわけで、その逆も真なり、です。あえて、自国通貨を安くしているということは、その国は、輸入品が非常に高い...高価なものになってしまいますので、国内の、外国製品を買いいたい人...買う...仕入れたい企業は、その...デメリットを生じてしまいます。つまり、この時点で、デメリ...このデメリットは、メリットとオフセット、ということになります。

続いて、デメリットの二番目で、インフレ、ということをおっしゃっていましたが、インフレというのが、果して起きているのでしょうか。これは、実際は、一物一価ということになりますので、単一通貨でありますと、ある国とある国...今は違う通貨ですので、価格設定が違っても気づかない。ところが全部透明になるわけですね。こっちのマクドナルド、こっちのマクドナルド...あれ、値段が違うぞ、ということで、一緒にしようという効果が働きますので、値段が下がる、という力が加わります。これもむしろメリットであります。

続きまして、メリットについて、補強していきます。

まず、メリットの一番目ですけれども、実際に、軍...軍拡したいと言っているかどうか、ということですが、実際に、軍拡ということが起こりつつあります。

有事戦略研究会 2002年、引用開始。

「南シナ海に位置する南沙諸島は、中国だけでなく台湾、ベトナム、フィリピン、マレーシア、ブルネイの6カ国が、その全体または一部の領有を主張している問題の地域であり、この周辺各国は軍事力増強を競争し、アジアにも軍拡時代が訪れようとしている。」引用終了。

このように、軍拡というのは、非常に身近な問題として、アジアに起こっております。その典型例として、中国の例を出しました。すなわち、ここで否定側の義務としては、中国の例をクラッシュし、さらに、南沙諸島をめぐる各国の軍拡意図もクラッシュする必要があるわけです。

次に、カウンタープランの話をしていきます。カウンタープランで、日本以外でやったらいい、ということですが、そもそもあり得ません。なぜならば、アジアにおいて、円が唯一の基軸通貨っぽい通貨なんですね。というのは、アジアの経済の中で...貿易取引の中で、七割が円になっております。その残りの三割...リングギットと、タイバーツと、ルピアと、集まったところで、弱小...基軸通貨になるわけがないわけですね。いずれにせ

よ、そんなことでは...何の解決性ももたらせない...弱者の集まりです。日本がいなければ、全く意味がないわけです。ということでもあります。

次に、キッシンジャーの例を出しましたが、キッシンジャーは、過去の人です。今現在の政権に、何の影響力もありません。ということですね...日本外しということが、全く説明できておりません。また、仮にアメリカが何か...怒るとしてもそのインパクトに関しての言及は、全くされておられませんので、そこの心配はございません。さらに、アメリカは、アジアのその、通貨統合に関して、今のアメリカは、否定的ではありません。え...とですね...、田中宇、2003年、ホームページ、「ところが2000年から2002年にかけて、アメリカ自体の経済成長が不景気に入り、おぼつかない状態となるのと同時期に、アメリカはアジア統合の動きを黙認する態度に転じた。アジア協力対話の議論では、6年前にアメリカが猛反対したアジア版IMFの構想が復活しているが、アメリカはこの動きに反対していない。」引用終了

つまり、6年前には反対しましたが、今アメリカの状況、戦略は、変わってきております。これは、黙認、という態度ですが、これは、アメリカにとってメリットがあるからこそ黙認している、ということでもありますので、キッシンジャーの昔のステートメントというのは、全く意味がないものであります。

さらに、次、メリットの二番目ですけれども、メリットの二番目の攻撃で、現在はシステムができていますので、通貨危機は起こらない、というようなことをおっしゃってましたが、これは、全く嘘でございます。

チェンマイイニシアチブは、解決しない。

アジア協...近藤健彦、2003 [時間切れ] 年...

否定側質疑：加悦→櫻井

加悦：では、質問させていただきます。まず、デメリットについてなんですが...デメリットについて、まず二つ反駁されたんですが、一つ目が、まず輸入...ま、一つ目はいいとして、二つ目なんですが、統一通貨になり、値段が下がる、ということなんですが、これについて、もう一度プロセスを確認したいんですが...

櫻井：はい、これは、一物一価という議論、ございまして、欧州

で実際あったんですけども、ある国の同じ商品と、別の国の同じ商品が、違った値段であるとするならば、その値差というのは...価格差というのが露見するわけで、それで、価格調整が低い方に行われる...企業もそれに...

加悦：あ、はい、もう結構です。すいません。ではその、価格調整というのは、企業が自主的に行うものと考えてよろしいでしょうか。

櫻井：企業が自主的に行います。

加悦：はい、分かりました。では...じゃ、企業は無理をして、そういうことを行う、という...

櫻井：いえいえ、企業は、利益のために...ですから、利益が最大化するようなプライシングをします。つまり、デマンドとサプライ...需要供給の見きわめをして、そこでベストと思われる、オプティマルなプライシングをするわけです。

加悦：つまり、一番安い通貨になるんじゃないかと、企業は、その...幅があったものの中の、ベストなものを自然に選択する、という...

櫻井：ええ、それが消費者利益にもつながります。

加悦：分かりました。続いてなんですけど、ではまず、カウンタープランについて、アジアの機軸通貨の70%が円で取引されているとおっしゃっておったんですが、つまりこれは...これと、メリットの2で、ドル建てで取引している、ということで、ちょっと矛盾しているような気がするんですが...

櫻井：え〜と、こういうことです。円が、アジアの通貨の中で70%の力が...円が持っているんですけども、それですら、力がそれほどない。その、残りの、本当に弱小なところが集まった...残り三割が集まったってどうしようもないだろうというのが、我々のスタンスです。

加悦：すいません、メリット3の方に移っていきたいんですがアジアではドル建てで、[不明]なっているとっておったんですが...

櫻井：ええ。

加悦：じゃ...すいません、分かりました。では、メリット1に移らしていただきたいと思うのですが、メリット1について、これ、現在既に軍事力を増強している、ということ、資料を使って証明されたんですが、これは、何で現在軍事力増...軍事力増強しているっていうのは、現在の状況で...って話ですよ。ね。

櫻井：そうですね。

加悦：既に現状で、軍事力を増強している、ということですよ。

ね。

櫻井：え〜と、そういうきな臭い話が、あちらこちらにある、ということです。その典型例が、中国だということです。

加悦：わかりました。では、この、通貨を発行しないと戦争できかない、というのは、経済状態なんでしょうか。

櫻井：通貨を発行せず、また、財政赤字の縛りを設けることによって、各国が軍事費のようなものに費やしづらい[時間切れ]状況を生み出す、ということです。

加悦：わかりました。

否定側第二立論：赤津義信 ak2brains

では始めます。

まず、メリットの方、簡単に触っていききたいと思います。メリットの三点目...メリットの三点目は、これは、為替コストが重要だと言っていますが、彼らの二点目の証拠資料に関しては、ユーロでそういう状況があった、というだけで、アジアでどんなインパクトがあるか、ということが、全く述べられていません。二点目として、アジアは、域内の貿易よりも、対外的な貿易の方が重要です。

日本大学教授、角田氏は、2002年にこう述べています。

「こうして問題を残しつつも98年で東アジア通貨・経済危機をもたらした要因は大体において整理され、99年に入ると一転して東アジア各国は高成長を実現するところとなった。高成長を主導したのは、輸出の急伸であった。とくに、アメリカで積極的に進められるIT関連の投資が活発な需要をもたらした。」引用おわり。

よって、輸出が重要です。しかしながら、デメリットで述べるように、輸出は悪くなります。

次、メリットの一点目に行ってください。...その前にプランです。プランに行きます。

プランで、彼らはGDPの5%以内に制限すると言っていますがこれはエクストラピカルになります。単一通貨を導入するだけが、肯定側のオプションですので、メリットとしてカウントしないで下さい。

で、メリット1です。メリット1のソルベン...解決性は二つあって、一つはGDPの5%以内に抑える、この点については、メリット外です。

で、二点目として、彼らの解決性はありません。なぜかという

と、彼らが第二立論で読んだ、証拠資料でご存知のように、その...軍拡をしたい、と思っているわけですから、そういうモチベーションを制限することができなければ、結局軍拡をします。よって、彼らには解決性がありません。

では次、カウンタープランの方に行ってください。次、カウンタープランです。

逐一、メリット1、メリット2、メリット3に関して見ますと、日本が唯一アプライありません。中国の軍拡は、中国を、アジア域内に押さえればいだけですし、メリット2に関しては、小国しかフォーカスしません。メリット3については、インパクトがよく分かりません。ですので、日本をあえて入れる必要はありません。

で、C)で、では、日本を入れないと、どういうメリットが発生するか、という事を説明します。で、この証拠資料が言っているのは、日本が入ると、アメリカが反発する。なぜかという、アメリカが、アジアのドル離れに対して神経質だからです。

朝日新聞、2004年の証拠資料より引用します。

「ただ、今のところ、欧州の通貨ユーロのように強固な域内通貨統合をして『アジア共通通貨』をめざそうという動きはないそうだと、ドル離れの動きには米国が神経質になるのは必至だ。」引用おわり。

よって、三点目として、もしもアメリカが怒ると...怒る、そういう状況になりますと、通貨攻撃を仕掛けてきます。

95年の読売新聞より引用します。

「十九日の東京外国為替市場で円相場が一時、一ドル＝八〇円を突破した原因は、日米自動車・同部品交渉での強硬姿勢などを通じ、アメリカ側が円高を対日圧力に利用しかねないとの観測が強まったためだ。」引用おわり。

よって、四点目として、よって、彼らは日本が大事だ、というお話をしていますが、かえって、その大事な日本がつぶれてしまうので、カウンタープランによって、日本だけを外すべきだと考えます。

で、この点について彼らは、日本について怒っていない、という証拠資料を読んでいます、この証拠資料が言っているのは、AMF というものの設立に関してでありまして、私たちが読んでいる証拠資料のように、通貨危機...通貨統合について、全く言及されていません。よって、通貨統合すれば、確実にアメリカは反発し、為替攻撃などを仕掛けてくると思われれます。よって、そういうリスクを防ぐためにも、日本だけをとりあえず外して、他の各国で通貨統合すべきだと考えられます。

で、さらに彼らは、日本が七割を...貿易を、占めていると言っていますが、それは彼らのメリット2の方で、ドルが基軸通貨である、ということを行っていますので、全く矛盾しております。ドルが実際に基軸通貨ですから、その点は変わりません。もちろん彼らは日本がないと駄目、という証拠資料を、どこにも読んでませんので、十分...保有するお金などは増えますので、十分解決されると思います。

では、デメリットの方へ行ってください。

デメリットですが彼らの...彼らの反論は二点しかありません。一点目は、輸入する業者がメリットを得る、ということです。この点に関しては、一点目として、全くどんなメリットなのかというのが述べられていません。二点目として、私たちが、論点...メリット3のところを読んだ証拠資料を見てください。輸出が、そういう国に対しては重要だ、という風に言えます。です、これらがダメージを受けるために、悪いことが起こります。三点目として、何故そういうことが起こるかという、インフレ率に、色んな国で差があるからです。

井川教授は、2003年に、こう読んでいます。

「インフレ率に関して、1980年代と1990年代について、EUと東アジア諸国を比較する。1990年代におけるインフレ率のばらつきはEU諸国より東アジアで大きく、この点では為替レートを固定するための条件は東アジアで整っていない。」引用おわり。

よって、四点目として、このようにインフレ率に差があるところで、同じ、単一通貨を導入してしましますと、為替コストによって、インフレ...物価の上昇を調整することができなくなります。なぜかという、物価が上がってしまった時に、為替レートを切り下げれば、それを相殺することができるからです。輸出するものに関しては、ですが、四点目として、E)の証拠資料を見てください。この証拠資料が言っているのは、そういうことができなくなってしまうために、輸出に対して、影響をもたなくなってしまう...影響力が弱まってしま、ギリシャのような、輸出を中心とした国がつぶれてしまう、と。で、この証拠資料が言っているのはEUについてだけなんです、だからギリシャはEUに参加しなかった、という結論です。要するに、彼らの、肯定側のプランに関しては、EUに参加...無理やり共通通貨に参加させてしまうので、このような...壊滅的なダメージが発生すると考えられます。

次に、五点目として、彼らは、インフレは起きない、と言っていますが、インフレは実際に起きています。それは、私の上の証

抛資料で述べられています。さらに、ミャンマー...すいません...ラオスの例では、ものすごい量のインフレが起こっています。

1999年の読売新聞より、引用します。

「ラオスの経済は今、どん底にある。九七年のタイ・パーツ暴落の余波が、タイと国境を接するこの小さな社会主義国にも及んだためだ。[中略] 九七年七月のタイ・パーツ危機前、一ドル当たり千キップだった現地通貨は現在、一ドル約九千三百キップまで下がった。調味料、食品、化粧品といった日用品のほとんどを隣国タイからパーツ、ドルで輸入しているため、物価上昇率は九八年だけで約九〇%に達した。」

つまり、すごい...ものすごいインフレ率になっている国が、ラオスとか、ミャンマーとかにあります。とりあえず、ラオスのミャンマーというような小さい国が、ダメージを受けてしまいます。

で、六日目として、このデメリットが、さらにひどいのは、彼らが言ったように、財政的な制限や、為替コストによる調整というのが全く[時間切れ]できなくなります。そうすると、もうこれ以上解決することが不可能になります。

肯定側質疑：櫻井→赤津

櫻井：はい、お願いします。まずカウンタープランについて伺います。この、カウンタープランは、日本以外の国で、共通通貨導入、ということですが、それは、どのメリットを得るためですか。

赤津：メリット1、2は、確実に解決すると思います。まず1に関しては、日本を入れなくても、中国が他の国に合併されてしまえば、自由なことができない、という話になりますので...

櫻井：ええ、で、二番目は...

赤津：二番目の方のメリットについては、為替攻撃の対象となるのは弱小国だ、というお話をされていたので、日本は、そんな、弱小国とはいえませんが、少なくともタイとかミャンマー...え〜と...インドネシアとかは、共通通貨に入りますので、メリットは解決される...

櫻井：つまり、あの、弱小の集まりで通貨を統合すれば...

赤津：弱小が集まるとおっしゃっても、元とか...中国、韓国、インドネシアとか、その...重要どころが集まるんですけど...

櫻井：で、その、30%になるわけですね、アジアの...その...

赤津：30%?何が重要か、よく理解できない...

櫻井：分かりました。次にですね、ドルが、現状基軸通貨である、と...

赤津：それは、メリット2の三枚目に入っているものですか。

櫻井：ええ、これは、共通認識でよろしいですね。

赤津：はい。

櫻井：ということは、現状ドルが基軸通貨であるのが、円以外の...我々呼んでいる弱小通貨が、合わさることによって、その...ak通貨ですか...ができたとした場合、それが基軸通貨たり得るんですか。円なしで。

赤津：基軸通貨たり得るかどうかわからないんですけど、少なくとも、通貨攻撃に関しては、対一国に比べれば、13倍くらい資金量が増えますので、ま、十分ではないかと...13カ国くらいになる...十何カ国か分の...

櫻井：12カ国ですね。日本なしで...分かりました。理屈わかりました。次にですね、アメリカが怒る、ということですね。だから日本を外そう、ということですが、通貨攻撃をしてくと...してきた、という話...

赤津：過去にしてきました。

櫻井：過去にきて...それっていうのは、困った話なんですか。通貨攻撃されても...

赤津：これは、為替レートがすごい...ものすごく円高になってしまった、ということですので、為替が不安定が悪い、というメリットに...がかえって発生する、という...

櫻井：つまり、現状で...先ほどのお話を聞いてますと、現状ではその様なことが起こらないシステムが既にある、とおっしゃってましたよね。

赤津：それは、通貨攻撃に関してですね。

櫻井：ええ、で、通貨攻撃をされたら、困っちゃうんですか...

赤津：で、通貨攻撃というか...円高...困る...でしょうね。メリット2と同じですね...

櫻井：つまりそれは、現状では防げない、ということですね。

赤津：ん〜...

櫻井：はい、分かりました。ありがとうございます。次にですね、メリット1なんですけれども、軍拡したい、という意図がある以上...

赤津：そうですね。

櫻井：ということですが、我々のプランでは...我々の、先ほどの第一立論では、野心を無くすことができる、という引

用をしています。

赤津：野心を無くす事ができる理由がわからなくて、軍拡に対するモチベーションがあるんだったら、続けてしまうのではないですか、というお話です。

櫻井：なるほど。資金なしで戦争ができる、ということをおっしゃるわけですね。

赤津：いえいえ、資金に関してのアタッ...攻撃に関しては、第一立論で[時間切れ]されています。

櫻井：はい。

否定側第一反駁：加悦裕幸 ak2brains

始めます。では、まずメリット3から述べさせていただきますが、まず、メリット3で私たちが提出した攻撃、銀行が破産する、これをデメリット2と呼ばせていただきます。このデメリット2について、彼らは完璧に反論しませんでしたね。これについて、まず説明させていただきます。まず、これについて、当然、このコストがなくなる、ということについて、当然、その分...企業が得をする分、銀行が損をするということが言えます。そしてこれは、金額は同じですので、もちろんこれは、確実に起こることです。よって、私の二つ目の議論としては、この、銀行の...銀行の社会的重要性、という点において、この、銀行が破産する、ということが重要である...銀行の...銀行の方が、守るべきである、という事を、まず述べさせていただきますと思います。つまり、銀行というのは、よく経済で、国の...国の経済力のバロメータなどといわれているように、この、社会的重要性...例えば預金を預かったり、国のお金を流通をさせたり、こういったことについて、寄与している以上、こういった、企業の利益というものよりも、まず、こういった銀行の...こういった、お金の循環等をしているところを、まず守っていく方が重要だと思われまます。なぜなら、私の三つ目の理由としては、この、論点1で述べました、既に、こういった企業についての経済というものは、現状で回復している以上、現状で放っておいても、企業の利益というものは、ある程度守られていくんですが、ですが銀行というのは、私が、この...メリット3で述べた、最後の資料を引用していただきたいのですが、既に、中国等の銀行は、破産寸前の状態に追い込まれており、国家予算の...国家予算のほぼ同額の不良債権を抱えておる。こういった状況で、もしこの為替...銀行の利益を損なうようなことがあれば、当

然銀行が破産します。例えばあの...日本の住専問題のようなものを思い出していただきたいんですが、そういったことが起これば、当然国中に深刻な影響を与えますので、こういった各国の深刻な影響および、この、確実に、この、コストがなくなるのが起こるとい...この、確実性において、各メリットより優れているということが、私は言えると思います。

そして、続きましてまず、その、メリット2に移りたいと思うんですが、まず、メリット2について、私は、通貨スワップというので問題がない、ということ、提案...挙げたんですが、これは、この...資料の方を見ていただきたいんですが、現状として、こういったものを、方向性として、加速させていっている。つまり、将来的に、こういったものがどんどん充実していく、この点について彼らがカウンタープランで提供した、アメリカが認めている、つまりこの、アジア版IMF、AMFを認めたり、とか、こういったことがどんどん加速されていくわけですから、そういった点で、現状でも十分進んでいく。つまり、彼らは...将来的にも、起こるかも知れないというリスクがあるかも知れませんが、それについては、これからどんどん加速されていっている以上、そういった将来的な観点について、この、スワップというので確実に回避されていく。そしてさらに、さっき言った銀行...銀行の破産、という、確実に起こるものを防ぐべきだ、ということで、彼らの、この、どんどん問題性というのは、将来的に薄れていっている、ということを示したいと思えます。

そして、さらに私の...私の...さらにこれについて言いたいんですが、彼らは、ヘッジファンドが仕掛けてくるという...まずこの、通貨危機には、問題点が二つありまして、ヘッジファンドが仕掛けてくる、ということと、まずこの...国内の産業構造が、不良債権が多い等の、こういった脆弱な...脆弱な構造に対して...こういった二つの点があるんですが、この、ヘッジファンドが仕掛けてくる、と言う点については、この、スワップが既に制度として存在している、ということから、当然その、これは、つまり、お金を流通する量が、各国が多い、ということが言えるんですから、その点において...つまり、通貨スワップという制度を、ヘッジファンドが知っていれば、当然仕掛けてくる、ということは、あり得ません。よって、この点について、彼らの問題は全くない、と言えます。そして、さらに続いて言いたいのが、この、不良債権ということについては、彼らは反論していないので、もう一度説明させていただきますが、こういった各国で不良債権がおる...先ほど銀行でも言ったように、

そういった...こういった問題が存在する限り、一度、そういった変動が起こってしまえば、通貨危機というのは必ず起こる、よって、この点において、メリット2というのは確実に得られない、ということが言えると思います。続き...その点において例えば...失礼しました。で、そういういったことが、確実に言えると思います。よって、さらにこの、メリット2、メリット1においても、先ほどから言っておったんですが、既にこういった軍拡というのが進んでおり、さらにこういった、戦争というのは、常にもう、既に問題として、こう言った小競り合いとか起こっている、といったことや、さらに...さらにこういった戦争といった、どこまでつながるか分からない、といった、確実性において、この、銀行というのが全て...が、この、銀行の、デメリット2というのが、勝っている、ということが [時間切れ] 言えると思います。

肯定側第一反駁：稲田誠 即席とんこつ

それでは、カウンタープラン、デメリット、メリットの順番で行きたいと思います。

まずカウンタープランなんですけれども、彼らは、我々の最初のところの返し...七割が円というところに対し...ドルが基軸であるということと矛盾していると立証していますけれども、これは違います。我々が主張しているのは、七割は、円...アジア域内での、円の力というのは、七割ある...七割のボリュームがある、ということを行っています。これが一点目。二点目として、メリットは、ディーブ・ポケット理論、つまり、円が入ることによって、大きな通貨、強い通貨が出来上がる、ということでメリットを得るので、そういう通貨を形成することができない、このカウンタープランは、メリットを得られません。三点目、ということで、カウンタープランではソルベンシーがない、ということが言えます。

次にですね、彼らが第二立論で出してきた証拠資料ですけれども、朝日新聞の証拠資料、アジア...アジアを米国...アジアを...米国が神経質になっていると言っていますけれども、これは、米国の意志をあらわしたのではない、ということ、着目してください。ということで、この証拠資料は当てはまりません。なぜならば、私たちの出した証拠資料、アメリカは否定していない、という証拠資料がありました。これは、アメリカがIMF構想に一旦は反対した...六年前か、七年前かぐらいに

は反対したんですけれども、現在はその立場を翻している、否定はしていない、ということにおいて、この、アメリカが怒る、というシナリオは成り立たない、ということがあります。さらに彼らは最後の...最後の資料ですけれども、93年のことを言っているエビデンスでした。円高を批判している、と。ただ批判しているだけで、何かをしている、ということは言っていないし、これは単一通貨のことを想定していません。なので、このカウンタープランの優位性というのはありませんし、まず成り立たない、ということで、カウンタープランはありません。

デメリットの方に行きたいと思います。彼らはデメリットの方で、輸入...輸出しやすくなる政策を取っているのが、できなくなる、と言っていますけれども、これは、我々が言ったように、オフセットできます。輸入が高コストになる、輸出が低コストになる。輸入というのは、重要な位置を占めておりまして、例えば、日本企業が中国でモノを作ってアメリカで売る場合、どうなると思いますか。それは、ドルで決済されます、まず。日本からパーツを中国に輸出して、それがドル決済、で、中国の中でアSEMBルして、日本企業がまた買い戻す、そこでまたドル決済、さらにアメリカに輸出する、ドル決済、こういう風に三重にコストがかかっている中で、為替競争というものに...世界競争というものに、日本は...日本、もしくはアジアの諸国というのは、遅れをとっている、ということで、このコスト...為替調整によるメリッ...彼らの言うデメリットは成り立ちません。

さらに、メリットの方に行きたいと思います。メリットの方...メリット1、軍事的脅威ですけれども、これは、緊張が高まっている、と。軍事的脅威が高まっている...緊張が高まっている、そこに、軍事的資金を増やす余裕があれば、いつ何が起こってもおかしくない、それは、我々のIACでシナリオが証明されている通りです。これは、こういうリスクを回避することが大切だ、ということで、単一通貨こそがこれを解決する、ということを行っています。

次にメリットの二番目に行きたいと思いますけれども、これに対しては、将来的には解決すると言っていますけれども、これ、リスクは否定していません。さらに、チェンマイイニシアティブは、10%の資金しか使えない...100%のうち90%は、AMFが承認しなければ使えないので、10%しかすぐに発動できないようなことになっていますから、ディーブ・ポケット理論、我々のメリットの方が、確実に、この、通貨危機というものを

回避できる、ということが言えます。

メリットの三番目の方ですけども、彼らは、経済が上向いていると言っています。ということは、色んな企業の企業活動というのが、活性化しますから、銀行はその...その他収入が得られる...為替手数料以外で収入が得られるということで、壊滅的な打撃を得られる...プランの「とんこつ」導入によって、壊滅的な打撃が与えられる、ということまでは言っていない。さらに、銀行が損をすることと言っていますけれども、経済というのは、事業会社が実業をすることによって、活性化するんです。ということは、事業会社が収入を得て、どんどんお金を回していくことによって、銀行にも当然、その、資金の還流ということで、メリットはあります。ということで、為替手数料が減ったからといって、それは、まずマクロ経済、第一のステップでは、オフセットです。しかしながら、実業会社、事業会社が活性化するという点において、経済はどんどん発展して行って、金融[時間切れ]機関にもその資金が流れるということで、このメリット三番目も我々のものです。以上です。

否定側第二反駁：赤津義信 ak2brains

では始めます。

まず、シナリオを聞いていると別個なので、メリット1から反論したいと思います。メリット1に関しては、彼らは、財政的、為替的な制限を与えることで、軍事的なデメリットが...脅威が発生しないと言っていますが、これは、繰り返し第一立論から言っているように、問題はお金があるかないか、ということで、お金を稼ぐためには、為替を別に固定しても、財政赤字を増加させたり、また、すぐに経済が発展しない場合、いくらでもお金が使えてしまうこととなります。よって、予算に対する枠とかを変え...与えない限りは、軍事力は上がってしまいます。二点目として、私が第二立論で言ったように、その、軍事力を上げたい、というモチベーションそのものは否定されてませんので、それが続く限りは、このデメリット1は発生しません。

では、メリット2、3とデメリットについて話したいと思います。

一番大事なのは、このラウンドでは、彼らは、長期的なメリットを、まず、考えているということです。長期的に、為替リスクがなくなったら、メリットが...経済が良くなってメリットが

発生するとか、長期的に、後で起こる通貨危機の、将来的なリスクが回避できるとか、そういう話です。ですが、私たちのデメリットが言っているのは、導入した時点で悪いことが起こってしまっ、それで、何も...メリットを得る前に、経済全体がつぶれてしまう。よって、メリットを得るも...なにもかもなくなってしまうという、一番緊急な問題だということを、私たちは証明したいと思います。

まずメリット1です...メリット2です。申し訳ありません。

メリット2で、私たちの通貨スワップの話で言ったように、現在でも十分に対応する能力があります。彼らは繰り返し繰り返し円が強い、という話をしておりましたが、円が強い、ということは、要するに、今、円を貸せるっていう状態になっています。それが通貨スワップです。円を違う国に貸せる、それが通貨スワップです。ですので、円を貸してしまえば、単一通貨になるのと同じように、その国は大きなお金を持てることとなりますので、通貨危機は発生しません。二点目として、彼らは完全にリスクは否定してないと言っていますが、こういう状況...制度がある上で、どれだけリスクがあるか、ということを彼らは全く証明していません。よって、将来の危険のリスクはほとんどないと考えてください。

で、次に、メリット3の方に移動してください。

メリット3。メリット3で一番重要なのは、彼らはソルベンシーがあると述べていますが、第一立論から彼らはソルベンシーを全く...解決性を全く証明していません。ですのでまず、ソルベンシーはありません。二点目として、彼らの重要なところは、アジアにとって、域内の貿易がどれだけ重要か、ということが全く証明されていません。三点目として、私が第二立論で言ったように、域内の貿易よりも、域外の貿易、アメリカとの輸出の方が重要だということを、私は証明しました。その輸出がかえってダメージを受けてしまうので、メリットの...デメリットの方が大きいと考えます。四点目として、彼らのメリットの前提条件というのが、長い期間、この、通貨同盟...単一通貨が成功すれば、得られるメリットである、ということです。ですので、デメリットが先に発生してしまえば、メリット3は発生しません。ですので、何を言われても、長期的なメリットの方には投票しないで下さい。

じゃあ、デメリットに行きます。

彼らの第一反駁の反論は、はっきり言ってしまえば、メリット3と同じ事しか言っていない。為替調整などができなくて、コストがかかる、それはメリット3と同じです。彼はこの点に

ついて重要性を全く証明しておりませんので、全く関係ありません。二点目として重要なのは、インフレ率が違う国が、同じ単一通貨を導入し...導入してしまったら、国々にあわせた単一...通貨のレートを設定できなくなる。それで、二点目として、それを無理やりやってしまうと、B)でおっしゃったよう...書いてあるように、国内経済が破綻してしまう、だから結局輸出ができなくなるからです。三点目として、輸出と輸入とどちらが大事か、という議論になりますと、輸出が一番大事です。それは論点...メリット3の方で述べております。四点目として私が最初に述べたように、一番最初に発生するのは何かというと、このデメリットです。なぜ...なぜかということ、導入した...単一通貨を導入した時点でインフレ率に差があるのに、無理やり導入しますので、その瞬間からデメリットが発生します。ですが、メリットというのは、経済がある程度自由になって、企業が動いてから発生するものですので、その前にまずデメリットが発生しますので、デメリットの方が大きいと考えられます。さらに、五点目として、メリットの二番目とか三番目とかの話は、小さい国を想定していると思われまふ。特にメリット2ですね。中小国が為替攻撃に耐えられない。ですが、デメリット2の方は、確実に、中小国を、明らかに、ダメージを与えてしまいます。ですから、メリット2も、起こる前に、デメリットが確実に発生してしまいますので、私たちのデメリットが明らかに[時間切れ]大きいと考えられます。以上です。

肯定側第二反駁：櫻井功男 即席とんこつ

では始めます。では、ラウンドを振り返ってみましょう。我々は三つのメリットを出しました。対して、否定側は一つのデメリットを出し、かつ、カウンタープラン、代替案というものを出してきました。それは日本以外でやったらメリットが得られるのではないか、というものでした。それでは、個々に見てみましょう。

メリット1。メリット1では我々...軍拡というものが、アジアに要素としてあって、その芽を摘むことができる。なぜならば単一通貨にすることによって、為替発行権を中央集権にすることによって、例えば中国なりが、勝手に暴走できない、ということ。さらに言いましたのは、財政に縛りを設けて...財政赤字に縛りを設ける、ということ、勝手に国債ガンガン発行して、軍資金を捻出するということもできない、ということ

も証明しております。で、実際にイタリア等々...ヨーロッパの例ですけれども、財政赤字を削減する努力の一環として、防衛費を削った、というのが出ています。ということで、ここで...現在においては、緊張感の素地があるよ、ところが、そのキャパシティとチャンスというものを...芽を摘み取るということが、我々、フレームとして、できるわけです。これは非常に重要です。

で、メリット2に関しましては、非常に...クラッシュしました我々は言いました。大恐...通貨危機が起こったよ。事実ですね起こりました。それに基づいて、否定側が言ったのは、その反省で色んなシステムができましたよ、ということでした。で、一方我々は、危機が起こった以上、完璧にリスクフリーな状態すなわち為替の...が、なくなるわけですね、単一通貨にするとそういう状態がいい、というのが域内の問題で、域外に関しましては、ディープ・ポケット論、ということで再三言っていますけれども、アジア...日本を含めてですよ...日本を含めたアジアを、入れることによって、強大な通貨になりえる、ということで、ヘッジファンドが入る余地がない...大きな傷を負いますのでね、失敗すると...ということがなくなる、と。で、これに関しましては、カウンタープランは、日本以外の弱小の集まりですから、そんな、ヘッジファンドは平気で入ってきますし大怪我はしないわけです。ということで、危機というのは実際に起こっていますし、そのリスクというのは回避できていません。でスワップなどの取り決めがある、というのは事実ですがところが、それが、我々証明してきましたように、IMFの了解がなければ、その10%しか、現状では発動できないということで、クイックレスポンスが全然できないということなんですね。ということで、ヘッジファンドというのは、それこそ何分何秒の単位でやってきますので、そのときにもう経済が崩壊している、という状態が起こるのです。一方我々は通過を統一するわけですから、為替相場のヘッジの作用も何もないわけですから、その点、重要です。つまり、危機の芽を摘む、というのが否定側の発想であって、我々はコンクリートを敷き詰めて、種すら落ちない状態にするわけです。ここで我々は優位性はあります。

で、メリット3、手数料の件ですけれども、これは、プラマイあります。手数料を払わなくて済む、というハッピーな面もあれば、手数料の儲けが減る、という事もあります。ま、オフセットのかな、と思いきや、そうではございません。なぜならば、手数料というのは、現在競争...国際競争力において、ハンデとな

っているわけですね。で、そこで...低コストになれば、域内からこう、域外に対して...アメリカとかヨーロッパに対して、輸出するものの値段がおさまるわけです。なぜならば、日本...域外...域内においても、色んな組み立てや何かで、域内輸出入をやって、アSEMBルして、域外に輸出しているわけですから、国際競争力が生まれます。経済がアクティベートするわけで

す。銀行が潰れるという、危機的なことをおっしゃいましたけれども、そんな、債務超過の状態の銀行は、早晚潰れるわけですから、それは、経済淘汰しているわけですから、ユニークネスがありません。さて、重要なことです。ここで大事なのは、短期的な「時間切れ」経済と戦争と、どっちが重要でしょう。そこをお考え下さい。